

■おもちゃを欲しがる子供、

遺産を欲しがる大人

修正： 2018.06.01

投稿： 2018.06.01



●おもちゃを欲しがる子供、遺産を欲しがる大人①

「これも欲しい、あれも欲しい！」と、
「欲しい！欲しい！」の慾にまみれたのが人間だ、
とされています。人間は慾の塊です。

「慾」という言葉一つとっても、
「食欲」「性欲」「睡眠欲」
「物欲」「財欲」「知識欲」
「名誉欲」「自己顕示欲」と、
実にさまざまな慾が表現されております。
そしてこの慾こそが、私たちを突き動かす原動力です。

「死に際の、遺言氣にして、親の世話」と、
遺産目当てで親の世話をします。
「財欲」が人を動かしています。はたまた、

「評価されたい、認められたい、有名になりたい！」と、
地位や名声を求めて成功を追いかけます。
「名誉欲」が人を動かしています。

と、このように説明すると、
「何だか、慾とはよろしくないものだな…」と、
ネガティブに感じられるかもしれませんが、いえいえ、

慾があるからこそ夢を持ち、
夢の実現に向けて全力疾走できるのです。

度々、人事マネジメントの世界では、
「マズローの欲求段階説」が取り上げられています。
新人研修でもよく利用されています。内容としては、

「欲求階層のトップに位置する自己実現欲求をもって、
頑張って働いていきましょう！」と説いたものであり、
ポジティブな慾で人を動かそうとする試みです。

しかしこの慾も、マネジメントできればこそのもので、
コントロール不可能に陥れば、自己を破滅に追い込みかねません。

(続)

//=====//

●おもちゃを欲しがる子供、遺産を欲しがる大人②

日本昔話に「くつついた欲の皮」
というお話があります。

「誰か死んでくれんかのお～」

の和尚の一声で物語は始まります。

//-----

ある日、和尚は、強盗を企てました。
その変装のため、飼っているヤギを殺しました。
殺したヤギの皮を剥ぎ、その皮を被ってヤギに化け、
また顔にはヤギの血を塗りたくって素顔を隠し、
そうして民家から大金を強奪しました。

まんまと大金を盗み出した和尚でしたが、
その後、なぜかヤギの皮が自分の体に張り付いてしまい、
やがて和尚は人の言葉も喋れなくなり、
とうとうヤギになってしまった、というお話です。

//-----

タイトルの「くっついた」とは、
殺したヤギの皮が自分の皮膚と同化した、
という意味であったことが分かります。

この和尚は、「わしは金しか信じんぞ！」と、
「財欲」に身を滅ぼしました。

世間でも、金銭的トラブルは後を絶ちません。
ちょっとしたことで口論となり、
「ついカッとなって…」という事態に陥ります。

後になって思い返せば、高々数十万、数百万円です。
人生と数百万円を天秤にかければ、
明らかに、人生の方が重いことは分かります。

しかし、一時の感情で人生を捨ててまで
目先の利益を追求してしまうのが、欲求の恐ろしい一面です。

コントロールできればこそ、欲求は強いエネルギー元ですが、
逆に、欲求にコントロールされてしまえば、身が減びます。
はたまた、いつの間にかヤギになってしまうかもしれませんね。

(続)

//=====//

●おもちゃを欲しがる子供、遺産を欲しがる大人③

「これも欲しい、あれも欲しい！」と、
「欲しい！欲しい！」の欲にまみれているのが人間です。

このような「欲しい！欲しい！」という欲求は、やがて、
「くれ！くれ！」という要求に変わり、そうして、
人から「奪う」ことを考えるようになります。その結果、
人から「奪われる」という結末を迎えます(「奪って奪われる」の原則)。

しかるに「欲」とは、己を貧しくする原因であるとも言えます。
ほしいままに生きていけば、人から奪うことになり、
よって人から奪われ、結果的に貧しくなってしまうのです。

そうして、欲求を抱いているにも関わらず、それが手に入らないとき、
欲求不満は苦しみへと変わっていきます。ゆえに、欲のまま生きていけば、
苦しみと奪い合いしかないわけですから、まさしく地獄と言えましょう。
(この種の地獄を餓鬼地獄と言います)

餓鬼(ガキ)とは、人から奪うことを考えている人のことです。
俗に「ガキ」と言う「子供」のことを指しますが、それは、
子供のうちは(大人の)人から奪おうとするからです。
(と言うより、子供はそうしないと生きていけない)

時には、子供同士、おもちゃの取り合いをするなどして
ケンカしたりしますが、これを見つけた大人は、
「こら！止めなさい！おもちゃくらい貸してあげなさい！」
と「与え合うこと」を強要します。しかし、

その大人も大人で「お金や名誉」と言ったおもちゃを、
大人同士で、醜く取り合っているものです。

小さな子供のことをガキと言うわけではありません。
足るを知らず、奪うことばかり考えている人
のことをガキと言うのです。そういう意味では、

「おもちゃを取り合い、泣き叫んでいる子供たち」も、
「親の遺産を前に、弁護士を介して睨み合っている大人たち」も、
皆等しく「餓鬼(ガキ)」なのです。

(続)

//=====//

●おもちゃを欲しがる子供、遺産を欲しがる大人④

子供がおもちゃを取り合ってケンカしていれば、

大人「こらっ！止めなさい！

おもちゃくらい、少しの間、貸してあげなさい！」

と子供を叱りつけます。しかしその大人も、

親の遺産がいくら手に入りそうだとすれば、

珍しく姉妹一同集まり、骨肉相食む

「おもちゃの取り合い」を始めます。

「あら、久しぶりね～（´▽`）」

と笑顔であいさつを交わしつつも、心の中では、

「まったく、何でこんなにも集まってんだか…（￣っ￣）」

と取り分の計算に頭が回ります。

「ほんと、久しぶり～。最近どう？」

私なんか、旦那が新居を購入して、

毎月のローンがさあ～（`ー´）ノ」

「あらやだ、それは大変。

でもうちなんか、子供ができちゃって、

教育には何かとお金がかかるのよねえ～（*´▽`*）」

うふうふ、あはあは、オホオホ

「おもちゃを欲しがる子供」と「遺産を欲しがる大人」

「年とれど、欲しがるココロに、限り無し」

「欲」もほどほどにしなければなりません。

って言われても、

「欲しい！欲しい！」と心底切望するのが人間なのでから、
「ほどほど」などそもそも無理な話です。

もし簡単に欲求をほどほどに抑えられるのであれば、
わずか数万円のために人を殺してしまうと言うような、
割に合わない犯罪に手を染める人もいないはずです。

ではどう欲求をコントロールしていけばいいのか？
と言うことについて、欲求の方向性をコントロールする方針で、
「蒔かぬ種から芽は出ない」や「自業自得」の観点から、
また機会があればお話しします。

(完)

//=====//

Web サイト：

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者：

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)